

大 銀 杏

学校だより NO. 3
令和2年 6月 1日
新宿区立牛込第三中学校

<http://www.shinjuku.ed.jp/jh-ushigome3>

あらためて 進級・入学 おめでとう さあ、少しずつ 前へ進もう

校長 伊 藤 裕 一

未曾有の3ヶ月を過ごした生徒のみなさん、あらためて、進級・入学、おめでとうございます。みなさんが我慢をし、じっとこの時を待っている間、いつの間にか冬が去り、桜が可憐な花を咲かせ、新緑が映える陽ざしが眩しい季節となりました。今回の惨禍、まだまだ「終息」という言葉を使うことはできず、すぐに全力疾走することはできませんが…みなさんは、本当によく頑張りました。そして、学校が再開されました。仲間が戻ってきました。先生方もこの日を待っていました。君たちを応援してくれる、保護者・地域の皆様も再開を待ち望んでいたことと思います。牛込三中の、そして君たち一人一人の力を発揮する時…さあ、少しずつ前へ進みましょう。出発です。

5月の学校だより「君たちのことが本当に心配でした」と書きました。その気持ちは、私だけでなく、牛込三中・教職員、全員が同じ気持ちで過ごしました。電話連絡を通して聞こえる声は明るく、「宿題、ちゃんと進んでいます」「ちょっとゆっくり起きてます」など、先生方との会話を楽しんでいるかのように感じていました。しかし、家にいることが多く、友達や社会とのつながりが薄れていく中、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、学校だけでなく、社会全体が飲み込まれていった4月…中学生の心が揺れないわけはありません。そして迎えた5月、連休明けには「臨時休校の延長」が決まりました。「きっと6月には再開、そして再会が待っている」と祈念し、先生方と「支援の方法を一步前進させる」ことにしました。学習面では時間割を作成し、その時間割に対応した課題を出しました。9時スタートの5時間授業、実技教科の課題もありましたが、どこまで学校のリズムで頑張ってくれたのでしょうか。心身の支援は、電話ではなく、課題の受け渡しを兼ね、直接的な個別の支援を中心としました。1人10分程度、しかも密にならないよう、場所は玄関や外、広い体育館を活用してでしたが、生徒の笑顔に会える貴重な機会となりました。「久しぶりだね、元気でしたか」「元気です」こんなたわいもない会話がとても嬉しく感じました。

君たちは本当によく頑張りました。そして、共に力を合わせて歩み始める時がきました。新たなスタートです。

今日の6月1日、午後からは『令和2年度・入学式』を举行します。非常事態宣言が解消されたとはいえ、今の状態を継続し、「これまでの我慢を実りにつなげ、笑顔の明日を迎える」ためには、慎重に進めていく必要があります。今回の入学式は、在校生・地域の皆様の参加はありません。しかし、在校生の想いや地域の皆様の温かな励ましの気持ちを重ねながら、新入生の出発をお祝いします。裏面に新入生が書いた作文を掲載しました。皆さんの夢や希望が叶うよう、そして、在校生が着実に成長の階段を上っていきけるよう、全力を尽くします。

明日からは、分散登校となるため、全学年が揃って学校生活を送るのはもう少し先になりますが、全学年3クラス、令和2年度・牛込第三中学校の始動です。

- | | | |
|--|--|--|
| 1 若いみどりは春ごとに
茂り広がる大銀杏
豊かないのち 澁刺と
天までとどけ
おお 輝く学園
われらの われらの三中 | 2 清らに白い五つ薔
花たちばなの薫りこそ
優雅なこころ胸に秘め
光を呼ぼう
ああ 明るい学園
われらの われらの三中 | 3 古いゆかりの濠に沿う
風爽やかな丘の上
学びの窓は開かれて
世界へ向かう
見よ 伸びゆく学園
われらの われらの三中 牛込三中 |
|--|--|--|

1年生の皆さん、本校の校歌です。一日も早く全校生徒の歌声が響くことを楽しみに、「輝く学園」「明るい学園」「伸びゆく学園」を目指し、『笑顔あふれる牛込第三中学校』を創っていきましょう。

令和2年度 入学式 本日、挙行 充実した中学校生活を創ろう

2ヶ月遅れの入学式、在校生とともに、この日を本当に待っていました。季節も変わり、「ピンとこない」人もいるかもしれませんが、あらためて、中学校生活のスタートです。

次の作文は、この臨時休校期間に「中学生になって頑張りたいこと」という題で1年生が書いてくれたものです。夢や願いがあふれる素敵な作文…皆さんの夢が叶うよう、全力で支援します。

ぼくは中学生になって勉強を頑張りたいです。勉強を頑張りたい理由は、将来の夢を叶えたいからです。ぼくの夢は「ホッキョクグマの飼育員」になることです。特に頑張りたい教科は二つあります。一つ目は英語です。二つ目は科学です。

頑張りたいことの中で一つ目の英語は、中学になり、小学校よりも本格的な内容の授業になるからです。また、飼育員になったときに外国の人にも上手く説明できるようになりたいからです。

頑張りたいことの中で二つ目の科学は、自然の仕組みや生き物の知識を得ることができるからです。飼育員になったときに、動物の健康を守るために役立てたいからです。

今の自分には足りないところが三つあります。一つ目は読解力です。ぼくは本を読むのが苦手だから興味がある本から読みたいです。二つ目は、コミュニケーション能力です。ぼくは自分の意見を説明することが苦手なので、言う言葉を整理しながら話したいです。三つ目は継続する力です。いろいろなことが長続きしません。なので、本当に大事なことを一つ決めて、中学校三年間続けたいと思います。

これから中学生になって、三つの足りないところを努力しながら、英語と科学の勉強を頑張っていきたいです。そして、飼育員の夢に少しでも近づけるように、一歩ずつ進んでいきたいです。

私が中学生になったら頑張りたいことは、三つあります。

一つ目は、たくさんの人と仲良くなることです。小学校の友達だけで仲良くするのではなく、新しい友達とも仲良くしたいです。なぜかという、小学校を卒業した時、漢字一文字の目標を「これまでの絆とこれからできる絆を大切に」と言う意味の「絆」にしたからです。

二つ目は、勉強と部活動と習い事のすべてをこなすことです。中学生になったら、勉強は小学校よりも難しくなると思います。そして部活動も始まります。さらに、習い事もこれまで通り続けていきたいと思っています。そのためには、中学の勉強をしっかりと、かつ、効率的に進めていくことが大切だと思いました。部活動は、何にするか悩んでいます。部活動とそれ以外を両立できるものにしようと考えています。習い事は、自分が好きでやっているの、これからも続けられるよう、その他のやるべきことをしっかりとやりたいと思います。

三つ目は、趣味を極めるということです。私は、水泳と三線とピアノが趣味です。水泳と三線は習っていますが、ピアノは遊び感覚でやっています。目標は、水泳はいいタイムを出すこと、三線は優秀賞をとること、ピアノはスムーズに両手で弾くことです。目標に向かい頑張りたいです。

今回、自分を見つめ直して、様々な頑張りたいことがあることがわかりました。中学生になったら、目標に向かって、一歩ずつ頑張っていきたいです。

「私は、もう中学生になったんだ」と自覚をもち始めた4月。この貴重な3年間を絶対に無駄にしないため、2つの目標を立てました。

一つは、「部活を一生懸命頑張る」ということです。中学という新天地で、小学校生活と大きく違うと思ったのが部活でした。部活はとても厳しいとよく聞くのですが、それを楽しめるようにしたいです。そして、この中学校生活の中の部活という大きな一つの活動で、私自身を大きく成長させたいです。私はスポーツに関係する部活に入るつもりなのですが、スポーツ万能になるために成長するのではなく、人として成長したいです。礼儀や態度などです。

中学校は、立派な大人になるための大切な第一歩のような存在だと思います。その第一歩をどう踏み出すかは、自分次第です。私は、自分なりに精一杯やっていきたいと思っています。

二つ目は、「友達をたくさん作る」ということです。少し子どもっぽく聞こえますが、すごく大事なことだと思います。この中学校生活、たくさん思い出を作って、楽しみたいです。そのためには、友達はたくさんいた方がより楽しい生活をおくれると思います。いろいろな友達といろいろな思い出を作りたいです。

私が思っているより、ずっと中学校生活は厳しくてきついかもかもしれません。ですが、自分の力で中学校生活を楽しく、よいものにするのが大切だと思います。そして、自分なりに第一歩を踏み出したいと思っています。

これから、よろしくお願いします。

感染予防・拡散防止に努めながら 教育活動を進めていきます

学校は再開しましたが、新型コロナウイルス感染症は終息したわけではありません。学校は集団生活が基本となるため、三密（密閉・密集・密接）が起こりやすい状況があります。常に緊張感をもち、**【三密を避けることを基本】**とし、次のことに留意しながら、慎重に教育活動を進めていきます。

新型コロナウイルス感染予防・拡散防止について

- 毎日、教室に入る前に、体調確認（生活と健康の記録の確認）をします。
- 教員・生徒ともに、マスクを着用して、学校生活・授業を行います。
- 授業形態や内容を工夫（グループや少人数での話し合い・教え合い等の活動は避ける等）し、授業を進めます。
特に、[英語][音楽][体育]等の発声や接触を伴う教科や[家庭科・調理実習]については、文部科学省の指針に沿って授業を進めます。
- 休み時間、うがい・手洗いをこまめに行うよう指導を進めます。特に、タブレットの使用等、共用の教具の使用後等は手洗いの徹底を図ります。
- 給食時、当番も含め、全員がマスクを着用します。（食べるとき以外は、マスクを外さない）
また、当面の間、班単位での会食は行わず、前向きで給食を食べるようにします。
- 発熱等、新型コロナウイルス感染症との関連が疑われる症状（発熱、だるさ等の体調不良）の生徒については、他の生徒と一緒に待機・処置（検温）とせず、別室で対応します。
- 学校生活において、新型コロナウイルス感染症に関し、偏見や差別が生じないように、人権上の課題として指導を進めます。

当面の教育活動について

- 通常登校までの準備期間として、明日から【特別対応期間】となります。この期間中は、時間差を設ける[分散登校]とし、授業・給食も1クラスを2分割する[分割授業]（3時間授業）・[分割給食]となります。
- この特別対応期間中は、部活動は実施しません。平常授業に戻り次第、徐々に再開していきます。
- 学習に関しては、この臨時休校期間中の学習の遅れを「補充・挽回」していくことになります。
毎日の授業においても工夫するとともに、放課後の補充等を進めていきますが、夏季休業の短縮や土曜授業の実施など、授業時数の補填を行っていきます。

学校行事・地域と連携した活動について

新宿区の方針[三密を避けるプログラム内容や運営方法とし、避けられない行事等は、収束まで延期もしくは中止とする]に沿って進めていきます。具体的には、

- 6月は、学校行事や外部から不特定多数の方が入る地域行事は実施しません。したがって、1学期の学校公開・授業参観・学校説明会は中止とし、2学期に実施します。
- 進路説明会や地域協働学校運営協議会等、生徒の教育活動に必要な行事や活動は、状況を確認しながら、感染防止に努め、順次、実施する予定です。
- 情報モラル教室やセーフティ教室は、延期または中止としますが、中学生にとって必要不可欠な内容であるため、道徳の授業や学級活動等、いろいろな場面で指導を進めていきます。
- 7月10日（金）に予定していた3年生の「高校授業体験」は、現時点では延期としますが、キャリア教育（3年生の進路選択）における大切な教育活動であり、状況を確認しながら、7月下旬の実施を考えています。
- 生徒の定期健康診断は2学期以降に延期して実施します。
- 2学期の大きな行事（職場訪問・延期した修学旅行・学芸発表会等）は、状況を確認しながら、教育委員会と連携・相談し、判断していきます。

※保護者の方には、本日、別紙にて詳細をお伝えしております。上記は、その概要版です。ご了承ください。

◆ 6月行事予定表 ※ () 数字は学年、○数字は実施する授業時間を示しています。

日	曜	行 事	給食
1	月	[学校再開日] 令和2年度・入学式	×
2	火	[分散登校・分割授業・分割給食]	○
3	水		○
4	木		○
5	金		○
6	土		
7	日		
8	月		○
9	火		○
10	水		○
11	木		○
12	金		○
13	土		
14	日		
15	月		○
16	火		○
17	水	職員会議	○
18	木		○
19	金		○
20	土		
21	日		
22	月		○
23	火		○
24	水	研修会	○
25	木		○
26	金		○
27	土		
28	日		
29	月		○
30	火		○

通常登校までの準備期間として、特別対応期間(分散登校・分割授業・分割給食)を設定します。
この期間は、全学年ともに、「3時間の授業と給食」で実施し、部活動はありません。
この期間の終了は社会状況等を総合的に判断し、区教育委員会が決定していきますが、平常授業への移行等、決まり次第、直ぐにご連絡します。

年度当初の予定では、この15日(月)～20日(土)の期間、1学期の学校公開週間の予定で、学校説明会や土曜授業参観、セーフティ教室等も組まれていましたが、すべて、中止または延期とします。
保護者会や進路説明会は、状況が整い次第、できるだけ早く開催いたします。

6月末、本来であれば、1学期・期末考査が設定されていましたが、1学期の延長(夏季休業の短縮)措置と併せ考え、適切な時期に再設定します。

○本校では、生徒の自立性を育てるために、週1回、「ノーチャイムデー」を設定しています。
学校は再開しましたが、通常登校・通常授業までは、もう少し時間が必要な状況です。通常登校が始まり、1年生が中学校の生活リズムに慣れた時点で始める予定です。

地域・保護者の皆様へ

非常事態宣言が解除となり、「学校が再開」しました。3月からの臨時休校の3か月間、学校の教育活動は限定されたものとなり、学習面は当然のこと、卒業式や入学式等の行事、友達との会話やつながり等、生徒にとっては大変な時間となりました。

しかし、大変な時を過ごしたのは生徒だけではありません。今回の惨禍は、社会・経済活動をも直撃しており、子どもたちを支えつつ、仕事・生活を継続・維持していく私たち大人にとっても、心がざわつく、大変な毎日でした。そして、今もその状況は終息したわけではありません。

今回の惨禍のゴールがいつなのか…どこまで続くのかわかりませんが、地域の学校として、生徒を支援し教育活動を一步一步着実に進め、生徒の成長を図ることはもちろんですが、同時に、保護者・地域の皆様とともに、この惨禍を乗り越えていきたいと思っています。

何かありますときは、ご連絡をいただければと思います。今後ともよろしくお願いいたします。